

2015 世界マスタース BP 大会報告

女子の部及び総括

日本選手団団長

物江 毅

男子の部

日本選手団コーチ

野田 俊彦

写真:

三浦 浩、物江 毅

4月14日夕刻、全国から参集したマスタースベンチプレッサー33名を乗せたUA138便ボーイング787は、成田から直行で米国デンバーに向かい飛び立った。時差15時間のデンバーには、同日13:00頃無事到着、最新鋭機かつトランジットがないので、快適な旅であった(ただ、アメリカ便は、食事の際アルコールが有料となるのが辛い。缶ビール1本で千円近く取られた)。

ホテルチェックイン前に、デンバーの繁華街16thストリートを僅かの時間ではあったが散策。その後ホテルに隣接するスーパーに寄り、17:00頃にホテルに入った。名前は変わっていたが3年前のレッドライオンホテルであった。

4月15日、アメリカンロッキーをバスで観光、3,000Mの高地は雪になっており、残念ながら眺望は望めなかった。3年前と同じ開催地及びホテルであったため、前はデンバー近郊の観光名所を回ったが、今回は眺望を楽しむ意味合いであったのだが、残念であった。



まだ、雪の残る、アメリカロッキー山脈



翌4月16日未明、オーロラシティ・ラディソンホテル周辺も何と雪、春の淡雪は翌日まで降り続いた。晴天率80%のこの地でも、世界的な異常気象の影響か、6日間の滞在期間中、すっきりとした晴天は二日のみだった。

今回日本選手は34名の出場と、例年よりもやや少ないエントリー、私は団長・審判・選手という三役掛け持ち。団長という立場では、やはり自分個人よりも日本チーム全体の成績が気になる。出来れば失格者なしで、今大会を終えたい。

「女子の部」

私の懸念を、日本選手団の皆さんは、微塵に砕いてくださった。特に、女子チームは過去最高の12名エントリー、うち10名優勝、2名2位という驚異の結果を残してくださった。素晴らしい成績を残された女子選手の方々について、全員レポートさせていただきます。

47kg級

M1 餘吾てるみ選手は、今回世界マスターズ大会(以下WMBPと略す)は初出場。にもかかわらずとても落ち着いた試技で82.5-87.5-90と三試技とも白3のパーフェクト試技で成功。競りかけてきたフランスの実力者Feraud選手を振り切り優勝、表彰台の中央で飛び切りの笑顔を披露してくださった。

M4 奥村正子選手は日本選手及び大会参加選手女子最年長、今回で3年連続のWMBPエントリー。昨年からはBPシャツを着用し、毎週二回水戸の李コーチのところまで通いシャットレをしておられるとの事であった。第一試技45kgを落ち着いて決め、ほぼ優勝確定後、第二、第三試技で挑んだ47.5kgはプレス軌道がズレ、残念ながら失敗に終わった。それでも堂々の大会三連覇である。サヨナラパーティーでは、袖の出で立ちで、日本女性の気品を示してくださった。これからもずっとお元気でWMBPにご出場いただきたい！

52kg級

M1 機谷礼美選手は、一昨年のプラハ大会同級で3位となったが、第一試技の80kgのみの成功で不本意であった。今回はそのリベンジ参戦であったが、第一試技87.5kgはプレス軌道がズレ失敗。果敢に90kgに増量して挑んだ第二試技は、ほぼ完璧にプレス。勢いに乗って挑んだ第三試技100kgの台にも難なく成功、リベンジとWMBP初優勝を果たした。練習では100kgをプレスしておられるとの事であったが、世界戦の大舞台で見事に実力を発揮して下さった。



感無量の57kg級M2優勝、酒巻選手

M2 大会常連の増山朱美選手が登場。過去2年 WMBP 大会では、やや不安定な試技が続いていたが、今回は好調、97.5-107.5 と順調に決め、優勝確定後自己記録となる 117.5kg に挑む元気であった。増山さんは M 2 ベストリフターでも 3 位と健闘した。

M 4 古川芳子選手は、昨年に続いてのエントリー。体重が軽い France の Heligon 選手との闘いとなった。古川さんは、55-62.5 と順調に成功、Heligon さんもなかなか強く、57.5-60 に成功、第三試技は古川さんが 63kg の世界記録に成功、体重が軽くロット No. も後の Heligon さんは、更に世界新記録をだそうと、63.5kg に挑み失敗。古川さんは二連覇を成し遂げたが、こうして後から試合経過を振り返ると接戦であった。結果的に優勝であったが、セコンドを含めて試合運びについては、反省の余地があろう。それでも僅か 1 年半にも満たない BP シャツ競技歴で、二大会連続の世界記録更新は、本当に素晴らしい。

57kg 級

M2 今年から M2 となった WMBP 常勝の酒巻知子選手が登場。軽めの 92.5kg から入り難なく成功、第二試技 102.5kg も決め、第三試技世界記録の 113kg に挑み見事成功、M2 ベストリフターにも輝いた。圧勝であったが、表彰式では感極まり涙ぐんでおられた。2 年前のプラハ大会の悔し涙を、見事に美しい勝利の涙にご自分で変えられた。本当に素晴らしい酒巻さん、いくら賞賛しても足りない程である。

M3 今回 WMBP 初参戦の長尾知子選手は、後述する山本茂樹選手と、越谷の公立施設のトレーニングルームで出会い BP の才能を見出された。BP シャツ歴 2 ヶ月で全日本マスターズ BP 大会を制し、WMBP の出場権を獲得、今回が初の国際大会出場であった。1 名のみエントリーであったので、第一試技はノーギアで 40kg に軽く成功、優勝決定後 BP シャツを着用し、第二試技 60kg も軽く成功、第三試技で自己記録の 67.5kg に挑むという、初出場とは思えない堂々たる試合運びであった。帰国後、「初めての世界大会、とても楽しかったです」とコメントをいただいた。

M4 伊川玲子選手は地元・埼玉では TV 出演の機会も複数回を数える、県内 BP 界の有名人である。今回 WMBP 初出場にあたり、神奈川の名門スーパーパワーアサマトレーニングセンターの門をたたき、名匠浅間茂敏さんの指導を仰いだ。上述した長尾さん同様第一試技はノーギアで軽く 45kg を決め、第二試技 57.5kg、第三試技 62.5kg と三試技とも成功、2 位に 17.5kg 差をつけ、見事に優勝した。今回選手以外の付き添いとしてはお一人だけ参加された友人の小泉さんも大拍手を贈っていた。

63kg 級

M3 に一般の世界 BP 大会出場経験もある、日本女子 BP 界のスーパースターのお一人である古味良子選手が登場。第一試技から世界記録となる 115kg に挑み難なく成功、第二、第三試技の 120kg には惜しくも失敗したが、格の違いを見せつけた。私は古味さんとは、以前から大会で顔見知りであったが、今回会話させていただき、とても柔らかな雰囲気チャーミングな女性である事を認識した。これからも WMBP にご出場いただきたい。

72kg 級

M1 に昨年 63kg 級で初出場、表彰台をまであと一歩と迫った工藤智恵子選手が一階級上げて参戦。このクラス、エントリー 4 名で、力が飛び抜けている Ribic 選手 (USA) を除いて、工藤さんを含む持ち記録 95kg 近辺 3 選手の勝負となった。体重が一番軽い工藤さんは第一試技 85kg と軽めに入り軽々成功。ほぼ同力量と思われる仏の Cevasio 選手も同重量成功、地元米国 Sturm 選手は 97.5kg に失敗。第二試技 Cevasio さん 90kg 失敗、工藤



M4 クラスで大接戦、52kg 級を制したのは、古川選手

さんは10kgUPの95kgに失敗、Sturmさん97.5kg失敗。第三試技Cevasioさんが90kgに失敗した時点で工藤さんの表彰台確定。工藤さんは95kgを見事に集中してプレス、判定は白3。Sturmさんが97.5kgに失敗したため、銀メダルをゲットするという大健闘であった。ちなみに優勝したRibicさんは第三試技で158kgの世界記録に成功、M1のベストリフターも獲得した。

工藤さんは、4/20デンバー⇒成田⇒伊丹と乗り継ぎ兵庫到着後、マッスルプロダクションに報告のために直行。そこで、藤田オーナーを始めとするチームメイトから、花束の祝福を受け涙ぐんでおられる姿がFace bookで公開されていた。今回の女子チーム、全員好成績であったため、一人だけメダルが獲れないのではないかとプレッシャーもあったと書いておられた。昨年の悔しさを見事に晴らした工藤さん、次の目標は表彰台の中央であろう。

M3には世界マスターBP大会全勝の澤千代美選手が登場、世界の女王の澤さんは第一試技で97.5kgに成功し、ほぼ優勝確定。競ってくる相手がいない事を確認して、第二試技105.5kgの世界新に挑んだ。残念ながら肘が伸びきらないという判定で、同試技及び第三試技も失敗であった。澤さんは右手首を負傷していたとのことであったが、格の違いを見せつける圧巻の14勝目である。実は澤さんはM3に入ってから、M2部門でもダブルで勝利しており、私の計算では16勝となる。大台の世界大会20勝まで是非とも頑張ってください。

84kg +級

M1に小松麻実選手が登場、このクラス、エントリーが二人であるため、第一試技に成功さえすれば銀メダル以上が確定する。100kgから入った第一試技、軽々と成功、第二試技107.5kgも同様に決め、第三試技110kgの日本記録も余裕を持って成功。三試技ともほぼ完璧なプレスであった。小松さんは3回目の世界戦で、今現在ご自身の力をいかに発揮し、見事結果を残された。

今回の女子選手は上述したように、最高の成績であったが、各年齢クラスで多くても3名のエントリーであったため、団体戦では出場選手の多い地元米国の後塵を拝する結果となった。M1・3・4が2位、M2が二人出場&優勝であったが3位という結果となった。

「男子の部」

大会1日目

◇第一セッションA 男子M2～M4 59、66kg級

この第一セッションAには7名の選手がエントリー。59kg級M2三浦選手（パワーハウス）は大会前、調子を崩しやや控えめの確実な重量からスタートしたのが功を奏し、第一試技の140kgを確実に獲り、第二試技は落としたため、スロバキアの選手が逆転を狙い第三試技に142.5kgを挑戦。それを失敗し三浦選手の優勝が決定。初出場した世界マスターズベンチでは失格してしまったが、その雪辱を見事果たし初優勝。唯一の車椅子の選手で他国の方々から賞賛を浴びておられた。同階級M4からは大瀧選手（スーパーG名古屋）がエントリー。第一試技はノーギアで確実に獲り優勝を確定させ、第二試技では100kgを成功させた。



66kg級M2には、矢野選手（ヤノパワージム）、中村選手（パワーハウス）がエントリー。矢野選手は、第一、第二試技と確実に獲り、第三試技は落としたが、180kgで優勝。中村選手も第一、第二試技を成功させ、第三試技は3位を狙いに行ったが惜しくも失敗。

集中!

135kgで4位だった。同階級 M3 には、佐藤選手（個人）と澤田選手（パワーハウス）がエントリー。佐藤選手は第一、第二試技を成功させ、第三試技は世界記録を狙ったが惜しくも失敗。記録は 160kg で優勝。澤田選手は第三試技、逆転を狙ったが惜しくも失敗。記録は 117.5kg で 4 位に終わった。練習ではお尻が浮くクセが見られていたが、やはり普段のクセが本番にも出てしまう。悔やんでおられたが、ミスをすることで次の成長になると思うので、しっかりと直し、次回はメダルを獲得してほしい。同階級 M4 には山本選手（個人）がエントリー。第一試技をノーギアで確実に 1 本を獲って優勝を確定させ、第二試技からは 128kg の世界記録を挑戦。第二で落としたが、見事第三試技で成功させて世界新記録で優勝。

◇第二セッション A

男子 M1 59、66、74kg 級

このセッションはどのクラスも接戦だった。59kg 級 M1 からは吉野選手（個人）がエントリー。第一試技の 147.5kg でほぼ優勝が決定かと思っただが、フィンランドの選手が第一試技 135kg、第二試技 142.5kg、第三試技で 150kg を成功させ、体重差で逆転を許したが、吉野選手が 152.5kg を成功させて見事優勝。66kg 級 M1 栢山選手（K's GYM）も第三試技に逆転を許したが、練習では終盤になって調子が悪くなり成功していなかったと言っていた 197.5kg をきっちり成功させて逆転優勝。74kg 級 M1 松岡選手（K's GYM 横浜）は、第一試技 200kg を成功させ、第二試技からはフランスの選手と競り合い。惜しくも競り負け銀メダル。悔しがられておられたが、この思いを糧にさらに強くなっていたいただきたい。

◇第二セッション B 男子 M2 ~ M4 74kg 級

74kg 級 M2 井出選手（F T ジム）は第一試技 190kg を成功させ、第二試技は 207.5kg に。惜しくも第二、第三



何と世界 14 連覇を果たした澤選手（中央）とセコンド陣

試技を落とし、松岡選手（スーパーパワーアサトレニングクラブ）が第三試技に成功すれば体重差で逆転をする 190kg を挑戦したが失敗。1 位井出選手、2 位松岡選手と日本の 1、2 フィニッシュとなった。同階級 M3 には世界大会初出場となる福岡県の田中選手（B.P.S）がエントリー。第一試技 125kg、第二試技 130kg、第三試技 135kg をきっちり 3 本成功させて 4 位。第三試技を 140kg にして成功していれば銅メダルだったかもをいや悔やんでおられたが、世界大会で



3 本獲るといのはとても素晴らしいことだと思うので、その正確な試技を続けて更に記録を伸ばして、また世界大会に出場し、メダルを獲得してほしい。同階級 M4 には緒方選手（パワーハウス山口）がエントリー。第一試技 135kg を確実に成功させ、第二試技の 140kg は失敗、第三試技は成功すれば体重差で逆転をする 145kg を挑戦したが惜しくも失敗。優勝も世界記録も十分狙える位置にいるのでコツコツと記録を伸ばしてまた挑戦してほしい。

大会 2 日目

◇第二セッション

男子 M1 ～ M4 83kg 級

83kg 級 M3 からは今大会で団長と審判を務められた物江選手（Team Ponze）がエントリー。肩を痛めており、練習も思うようにできておられなかったこともあったが、第一試技は無理のない重量選択をし、それをきっちり成功。第二試技は惜しくも失敗。第三試技は肩の痛みが激しくなったためパスをされた。それでも堂々の銅メダルを獲得。肩を治してまた好記録を期待したい。

◇第四セッション 男子 M1 ～ M4 93kg 級

93kg 級 M1 は葛西選手（K's GYM）、小笠選手（パワーハウス赤穂）がエントリー。このクラスも接戦だった。葛西選手は第一、第二試技を確実に獲り、暫定 2 位のアメリカの選手を離していったが、その選手が第三試技の土



壇場で赤試技だろうと思った挙がりだったが 270kg を成功させてしまい、葛西選手が同重量を失敗すると 2 位になってしまうという場面で、勝負強さが光り見事に成功。優勝を果たした。小笠選手は第一、第二試技を成功させ、第三試技の 210kg は惜しくも失敗したが記録は 202.5kg で 5 位だった。同階級 M4 には大ベテランの河部選手（栃木県協会）がエントリー。確実に第一試技、第二試技を成功させて、第三試技は落としたものの、150kg で優勝。2 位以下を寄せ付けない結果となった。

◇第 5 セッション 男子 M1 ～ M4 105kg 級

105kg 級 M1 は岡山選手（北海道医療大学

WTC 同門会)がエントリー。アップはやや重そうに見え、シャツも迷っていたのが響いたのか 230kg スタートでいったが、第二、第三も落としてしまい残念ながら失格となってしまった。同階級 M4 は世界大会初出場、京都の長島選手。日本人対決を避けメダルを狙えることもあり、1 階級上げてのエントリー。世界大会は初ということで緊張されておられたが、きっちりと 2 本成功させて見事に銀メダルを獲得。終わった直後は不安と喜びからか涙ぐんでおられたのが印象的だった。

「物江報告」

受け持ち範囲を逸脱するが、男子選手の結果についても、少し言及させていただく。

M1 で目についたのは、93kg 級の葛西選手、大会三連覇をかけて、Grohoski 選手 (USA) とのガチンコ対決になった。

私は副審であったため、一番近くでこの勝負を拝見した。第一試技は Grohoski さん 257.5kg、葛西さん 260kg と順調に取り、第二試技で Grohoski さんが 262.5kg に失敗、葛西さんが 262.5kg に成功した時点で勝負あったかと思われた。

ところが、第三試技で Grohoski さんシャツを着替え 270kg に増量し、不安定な試技ではあったがこれを押切り白判定。葛西さん同じく 270kg を申請、挙げれば体重差で優勝だ。葛西さんの下半身は、福島勇輝さんと同じようなフォームで、ベンチシートに安定した形で付いている。主審のプレスコール後、バーは順調に挙がっていく。プレス軌道がやや首よりにずれ、最後左のロックがほんの若干ではあるが甘い様に思われたが、押し切っていると私は判断し白を点けた。他の二人の審判も白で、試技成功。葛西さんは見事三連覇を達成された。

3 年前の同会場では世界の Denis Sieri 選手に果敢に挑んだ新鋭という印象であったが、今では堂々たる世界チャンプの貫禄・試技であった。

M1 では 59kg 級で優勝した吉野さん、66kg 級の栞山さんも夫々接戦を制し、2 位と 2.5kg 差で優勝。M1 団体戦でも米国に 1 点差で競り勝ち優勝に輝いた。

M2 では、パラリンピアンの方三浦浩さんが、59kg 級に出場、体重は 49.22kg で大会参加選手中最軽量。140kg で優勝したが、IPC の厳しい BP ルール大会においてノーギアで 137.5kg の記録を持つ三浦さんにしては、不満足な記録であったかも知れない。それでも表彰台の中央に腰掛けて晴れやかな笑顔でメダルを受け取る三浦さんに、会場内のすべての人から温かい拍手が贈られた。

M2 66kg 級に出場した矢野秀幸選手は、他の選手を寄せ付けず、第一試技 172.5kg、第二試技 180kg に軽く成功、第三試技では世界記録 190kg に挑む元気さであった。2 位に 12.5kg の差を点け、大会二連勝を飾った。



M3 では、やはり 66kg 級の佐藤恵二選手が強く、France の義足の強豪 Claude 選手に 10kg の差をつけ 160kg で優勝、M2 のベストラフター 2 位にも輝いた。ただ、第三試技で挑んだ世界記録 171.5kg に失敗したため、ご自身としては不満足な結果であったようである。

M4 66kg 級に出場した山本茂樹選手は、昨年 4 月に前立腺腫瘍摘出手術をされ、僅か半年で競技復帰。今回 2 年

ぶりの WMBP 出場であったが、第一試技をノーギアで取り初優勝確定後、BP シャツを着用し、第三試技では見事 128kg の世界記録を樹立された。1943 年生まれで、本年 72 歳になられるがとても若々しく、背筋がピンと張った後ろ姿は、50代と言っても通用する様に思えた。今回は長尾さんという新しいタレントを発掘して下さった山本さん、これからも WMBP 大会にご出場いただきたい。

今回ストロングラインでシャットレをしている選手が 5 名出場した。酒巻さん、長尾さん、吉野さん、山本さんが優勝、唯一物江だけが 3 位という事で、自分のせいでパーフェクト結果には至らず恐縮であるが、ストロングラインジム大健闘といったところであろう。

「総括」

今大会、初日の 4 セッション連続で審判シフトに入る様に指名された私は、第一セッション A の検量開始時刻 30 分前に、コスチュームチェックを担当すべく、検量室前に赴いた。

既に 10 名以上の選手がチェックを受けるために並んでおり、程なくチェックが始まった。

通常 WMBP のコスチュームチェックは和やかな雰囲気で行われ、全然問題など発生しないのであるが、開始早々私の隣のフィンランド人の審判が、タイタン、インザー、メタル以外のシングレット & ベルトは認めないと発言をし、次々に提出される上記メーカー以外の製品をはねだした。

そこで日本の鬼シングレットは本年 1 月から IPF の認定を受けている旨、当該審判員に説明し、ベルトについても「無印品でも使用可」という吉田進さんからの質問にガストン IPF 会長が答えている英文文章を提示した。すると、当該審判員はしぶしぶという表情でこれに僅かの間従っていたが、すぐに「やはり、三メーカーのものでないと駄目だ」と言い出し、挙句の果てに「ここはアメリカだから、ガストンのルールに従う必要はない」などと、訳の分からない事まで言い出す始末であった。



そんな状況下で第一セッションのコスチュームチェックは終了してしまい、選手の中には、他の選手のシングレットを借りてチェックを通過するもの、大会ブースでタイタンのシングレットを購入して試合に臨もうとするものが現れだした。当該審判員の暴走を IPF 技術委員長のスミス氏に報告したところ、「鬼シングレットは全然問題ない」という見解であったので、ちょうど近くにいた当該審判員を呼び、スミス氏から注意を与えたが、納得せず 10 分間もスミス氏に食い下がっていた。世界大会でなんともお粗末な審判がいたものである。しかもフィンランドチームは監督格の Sapoo さんや、私のライバル Antro さんなど、とても親日的な方が多いチームである。ただ、当該審判の暴走は、特に日本チームだけに向けられたものではなかったという事も、一言付け加えさせていただく。

本件はお粗末というレベルの範疇を超えているので、帰国後状況を問い合わせた被害者、武器屋ネット・奥谷社長に本件の詳細を報告した。程なく、奥谷氏からガストン氏に対して抗議文が発せられ、ジョニーグラハム IPF 副会長、スミス技術委員長、ロバートケラー事務局長から、夫々お詫びメールが奥谷氏に

M2,59kg 級、優勝、三浦選手。目指せ、リオでもメダル！

届くという結果となった。二日目からは、IPF 認定のアイテムリストが提示され、問題は解決したが、初日からリストを揃えていて欲しかったというのが、正直な感想である。

私は初めて WMBP に参加したのが 2006 年マイアミ大会である。途中身内の不幸で 1 回だけ出場していないが、この 10 年間 WMBP に関わり、ここ 4 年間は審判としても当該大会に係わっている。今回、2 月の初めに右肩を痛め、騙し騙し二ヶ月半調整してきた。それでも 4/6 にストロングラインでシャットレをした際は 77kg 程度の体重で 170kg が楽勝で、83kg 級でも充分戦えるという感触を持った。最終練習のつもりで、4/10 にやはりストロングラインで BP シャツを着たが、170kg を押せず、しかも肩の故障が再発するという最悪の事態で大会に望むハメになった。UP 場ではメインセコンドの佐藤恵二さんを始めとして、野田さん、栢山さんなど、多くの方々からのサポートを受け、第一試技 157.5kg に成功、失格がなくなりほっとしたのもつかの間、右肩が悲鳴を上げ始めた。第二試技 162.5kg をラックアップした際、とても挙がらないという感触が走り、事実 10cm も押せず潰れてしまった。第三試技は棄権したため、競っていたドイツの選手に逆転され 3 位という結果に終わった。

これで WMBP9 回出場、優勝、2 位、3 位それに失格が各々 2 回、4 位 1 回という結果となった。10 年以上前から WMBP に出場しているのは、澤さんと河部さんだけになった事を考えると感無量であるが、出来ればこの先もう数回 WMBP に選手として出場したいと思っている。かなり長引くと思われる右肩を直し、11 月初めの全日本大会に臨むつもりである。

今回のジャパンチームは IS のテロの危険がある事から、チームユニホームの着用を会場内のみ限定するなど出発時は少々不安な材料もあったが、スーパー添乗員大胡さんの好サポートにより、日に日にまとまりが良くなった。二日目の最終セッション終了後、皆で車で 15 分程度の距離のステーキハウスに繰り出した際には、試合が終わった安堵感も重なり、本当に寛いだ雰囲気、食事を楽しんでおられた。会食が始まる際に団長として「(自分が参加した)過去 10 年で最高のチームジャパンです」と挨拶させていただいた。

いろいろあったが、過去最高のチームジャパンの団長を勤めさせていただき、トラブル発生時にもスミス IPF 技術委員長のサポートにより、最小限に近い被害で収まった事、チームジャパンの皆さんの殆どが好結果を残して下さった事など、とても思い出深い大会になった。関係各位の皆さんに感謝してレポートを終えたいと思う。

「皆さん、有難うございました！これからも WMBP 出場を目指して頑張りましょう！！」



戦い終えて、華麗！！日本選手団

ロッキー山脈の動物たち

物江毅 写真館

ロッキー山脈には、様々な動物が見られるそうです。

世界マスタズベンチ日本選手団の皆さんは、一日、ロッキー山脈を散策し、その時出会われたプロのカメラマンが、動物の写真を撮ってくださったそうです。





15th World Masters Women's Bench Press Championships, Aurora (USA), 16-19.04.2015

資料:IPFホームページより

女子の部

Masters 1

-47kg

1.	Yogo Terumi	1969	JPN	46.7	82.5	87.5	90.0	90.0	121.60
2.	Feraud Nathalie	1967	FRA	46.64	82.5	87.5	90.0	82.5	111.57

-52kg

1.	Hatadani Ayami	1966	JPN	51.2	87.5	90.0	100.0	100.0	126.16
2.	Cutrona Tammy	1966	USA	51.4	60.0	65.0	70.0	70.0	88.05

-57kg

1.	Olsen Ann Kristin	1967	NOR	56.12	100.0	107.5	112.5	107.5	126.27
----	-------------------	------	-----	-------	-------	-------	------------------	-------	--------

-63kg

1.	Iliev Isabelle	1967	FRA	61.78	120.0	122.5	125.0	120.0	130.81
2.	Rey Gaudreau Jennifer	1971	USA	63.00	97.5	107.5	122.5	107.5	115.45
—	Cesard Carion Stephanie	1974	FRA	60.26	105.0	107.5	107.5	DSQ	—

-72kg

1.	Ribic Priscilla	1972	USA	71.86	125.0	140.0	158.0-w1	158.0	154.41
2.	Kudo Chieko	1967	JPN	63.9	85.0	95.0	95.0	95.0	100.94
3.	Cervasio Nicole	1972	FRA	69.5	85.0	90.0	90.0	85.0	84.98
—	Sturm Lara	1968	USA	64.52	97.5	97.5	97.5	DSQ	—

-84kg

1.	Walker Tammy	1968	USA	82.66	150.0	157.5	170.0	150.0	134.87
2.	Diers Stephanie	1974	FRA	78.36	100.0	105.0	115.0	105.0	97.21
3.	Unson Rachele	1969	USA	76.2	92.5	97.5	105.0	97.5	91.79

84+kg

1.	Dickens Jade	1974	USA	105.62	125.0	137.5	147.5	147.5	121.04
2.	Komatsu Mami	1969	JPN	102.7	100.0	107.5	110.0	110.0	90.90

Nation (points)

1.	U.S.America	54	[12+12+12+9+9]	613.82 w.pts.
2.	Japan	42	[12+12+9+9]	439.60 w.pts.
3.	France	38	[12+9+9+8]	424.58 w.pts.
4.	Norway	12	[12]	126.27 w.pts.

Best Lifters of Masters 1

PL.	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Ribic Priscilla	U.S.America	71.86	158.0	154.4130
2.	Walker Tammy	U.S.America	82.66	150.0	134.8650
3.	Iliev Isabelle	France	61.78	120.0	130.8120

Masters 2

-47kg

1.	Friedrich Marion	1965	GER	46.32	90.0	95.0-c2	100.0	95.0	129.10
----	------------------	------	-----	-------	------	---------	------------------	------	--------

-52kg

1.	Masuyama Akemi	1962	JPN	51.26	97.5	107.5	117.5	107.5	135.50
----	----------------	------	-----	-------	------	-------	------------------	-------	--------

-57kg

1.	Sakamaki Tomoko	1965	JPN	53.8	95.0	102.5	113.0-w2	113.0	137.19
2.	Homan Lynne	1962	USA	56.34	95.0	95.0	97.5	97.5	114.17
3.	Kemper Antoinette	1964	USA	55.9	85.0	90.0	95.0	95.0	111.94

-63kg

1.	Maciejewski Patricia	1961	FRA	62.88	102.5	110.0	X	102.5	110.24
2.	Herbin Evelyne	1956	FRA	63.00	85.0	90.0	90.0	85.0	91.29
3.	Sobotka Monica	1958	USA	57.88	72.5	75.0	77.5	75.0	86.00

-72kg

1.	Uppala Tarja	1965	FIN	66.1	105.0	112.5	122.5	112.5	116.57
2.	Leroy Aline	1962	FRA	66.58	70.0	90.0	95.0	90.0	92.77

-84kg

1.	Styrlund Laura	1964	USA	82.56	115.0	125.0	127.5	125.0	112.45
2.	Oxford Holly	1958	USA	83.22	97.5	97.5	130.0	97.5	87.35

84+kg

1.	Ferrell Deborah	1964	USA	128.16	165.0	167.5-w2	172.5-w2	172.5	136.34
2.	Calhoun Paulette	1958	USA	101.62	105.0	110.0	110.0	105.0	87.02

Nation (points)

1.	U.S.America	51	[12+12+9+9+9]	537.34 w.pts.
2.	France	30	[12+9+9]	294.30 w.pts.
3.	Japan	24	[12+12]	272.70 w.pts.
4.	Germany	12	[12]	129.10 w.pts.
5.	Finland	12	[12]	116.57 w.pts.

Best Lifters of Masters 2

PL.	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Sakamaki Tomoko	Japan	53.80	113.0	137.1930
2.	Ferrell Deborah	U.S.America	128.16	172.5	136.3440
3.	Masuyama Akemi	Japan	51.26	107.5	135.5040

Masters 3

-52kg

1.	Elwyn Susan	1947	USA	47.78	45.0	55.0	57.5	55.0	73.09
2.	Johnson Denise	1947	USA	50.54	32.5	37.5	40.0	40.0	50.97

-57kg

1.	Nagao Yuko	1950	JPN	55.84	40.0	60.0	67.5	60.0	70.75
----	------------	------	-----	-------	------	------	-----------------	------	-------

-63kg

1.	Komi Yoshiko	1955	JPN	62.46	115.0-w3	120.0	120.0	115.0	124.31
----	--------------	------	-----	-------	----------	------------------	------------------	-------	--------

-72kg

1.	Sawa Chiyomi	1949	JPN	71.16	97.5	105.5	105.5	97.5	95.91
2.	Moore Gail	1947	USA	71.06	80.0	87.5	90.0	87.5	86.16
3.	Liege Marie Chistine	1955	FRA	68.14	72.5	77.5	87.5	77.5	78.57

4.	Kimura Alma	1954	USA	69.78	67.5	72.5	80.0	67.5	67.30
-84kg									
1.	Speth Eva	1954	GER	82.48	100.0	105.0	107.5	105.0	94.51
1.	Dickson Ellynn	1951	CAN	111.76	70.0	75.0	82.5	75.0	60.78

Nation (points)

1.	U.S.America	37	[12+9+9+7]	277.52 w.pts.
2.	Japan	36	[12+12+12]	290.98 w.pts.
3.	Germany	12	[12]	94.51 w.pts.
4.	Canada	12	[12]	60.78 w.pts.
5.	France	8	[8]	78.57 w.pts.

Best Lifters of Masters 3

PL.	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Komi Yoshiko	Japan	62.46	115.0	124.3150
2.	Sawa Chiyomi	Japan	71.16	97.5	95.9110
3.	Speth Eva	Germany	82.48	105.0	94.5110

Masters 4

-47kg									
1.	Okamura Masako	1930	JPN	46.92	45.0	47.5	47.5	45.0	60.59
2.	Schmidt Joan	1940	USA	46.22	37.5	40.0	42.5	37.5	51.04
-52kg									
1.	Furukawa Yoshiko	1939	JPN	50.18	55.0	62.5	63.0-w4	63.0	80.71
2.	Heligon Francoise	1943	FRA	48.76	57.5	60.0	62.5	60.0	78.55
-57kg									
1.	Igawa Reiko	1939	JPN	54.28	45.0	57.5	62.5	62.5	75.36
2.	Burns Bebe	1942	USA	52.2	42.5	45.0	47.5	45.0	55.93
-63kg									
1.	White Helen	1945	USA	60.36	60.0	67.5	72.5	72.5	80.45
-72kg									
1.	Hernstadt Sharon	1939	USA	68.72	40.0	50.0	52.5	50.0	50.38
2.	Brubaker Romy	1937	USA	67.08	40.0	42.5	45.0	45.0	46.13
-84kg									
1.	Hackney Regina	1939	USA	82.98	65.0	65.0	70.0	70.0	62.81

Nation (points)

1.	U.S.America	54	[12+12+12+9+9]	300.62 w.pts.
2.	Japan	36	[12+12+12]	216.66 w.pts.
3.	France	9	[9]	78.55 w.pts.

Best Lifters of Masters 4

PL.	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Furukawa Yoshiko	Japan	50.18	63.0	80.7090
2.	White Helen	U.S.America	60.36	72.5	80.4530
3.	Heligon Francoise	France	48.76	60.0	78.5460

男子の部

Masters 1

-59kg									
1.	Yoshino Koji	1969	JPN	58.54	147.5	150.0	152.5	152.5	133.06
2.	Niemi Petri	1971	FIN	58.36	135.0	142.5	150.0	150.0	131.25
3.	Vann Joe	1975	USA	58.00	95.0	110.0	120.0	110.0	96.82
-66kg									
1.	Hazeyama Takashi	1972	JPN	65.56	185.0	192.5	197.5	197.5	155.93
2.	Waymel Olivier	1966	FRA	64.84	180.0	190.0	195.0	195.0	155.38
3.	Hadad Jeffrey	1966	USA	65.66	152.5	182.5	192.5	152.5	120.25
-74kg									
1.	Cuczella Alphonse	1966	FRA	73.22	205.0	210.0	220.0	210.0	152.21
2.	Matsuoka Kiyoshi	1971	JPN	73.4	200.0	207.5	212.5	200.0	144.70
3.	Mouzon Jon	1972	USA	73.22	175.0	185.0	200.0	185.0	134.09
—	Poehls Andreas	1968	GER	73.4	185.0	185.0	187.5	DSQ	—
—	Halbot Vincent	1969	FRA	73.64	185.0	185.0	187.5	DSQ	—
-83kg									
1.	Pinguet Cyril	1972	FRA	82.02	225.0	225.0	225.0	225.0	151.27
2.	Antoniew Barry	1972	CAN	82.58	215.0	227.5	227.5	215.0	143.94
3.	Thompson Donovan	1966	USA	82.76	190.0	195.0	217.5	195.0	130.38
4.	Szendera Rafal	1971	POL	78.00	165.0	170.0	175.0	175.0	121.43
5.	You Bill	1970	CAN	77.18	155.0	165.0	175.0	165.0	115.30
-93kg									
1.	Kassai Masahiko	1971	JPN	92.02	260.0	265.0	270.0	270.0	170.48
2.	Grohoski Pete	1970	USA	92.58	257.5	262.5	270.0	270.0	169.97
3.	Bataa Battengel	1970	MGL	92.14	235.0	242.5	245.0	242.5	153.02
4.	Rabineau Tony	1973	FRA	92.76	225.0	225.0	245.0	225.0	141.53
5.	Ogasa Tsuyoshi	1974	JPN	91.98	192.5	202.5	210.0	202.5	127.88
-105kg									
1.	Anderson Timothy	1972	USA	101.42	290.0	300.0	318.0	290.0	175.51
2.	Ferrantelli Mike	1966	USA	103.86	255.0	265.0	270.0	270.0	161.97
3.	Ghazal Khaled	1972	CZE	104.76	250.0	250.0	270.0	270.0	161.46
4.	Kraemer Thomas	1970	GER	102.74	195.0	202.5	210.0	210.0	126.48
5.	Rindemark Mats	1970	SWE	104.32	202.5	207.5	212.5	207.5	124.27
—	Laurikainen Petteri	1969	FIN	96.78	247.5	247.5	250.0	DSQ	—
—	Okayama Miki	1971	JPN	103.84	230.0	230.0	230.0	DSQ	—
-120kg									
1.	Leinonen Lasse	1973	FIN	119.34	300.0	300.0	315.5	300.0	172.71
2.	Kompelien Olav	1972	NOR	118.58	282.5	282.5	300.0	282.5	162.86
3.	Blomgren Conny	1968	SWE	115.36	270.0	282.5	282.5	270.0	156.76

120+kg

1.	Snyder Jeff	1971	USA	134.00	340.0	342.5	363.0	342.5	192.72
2.	Soukal Jaroslav	1972	CZE	162.4	320.0	342.5	345.0	320.0	175.04
3.	Guidez Jerome	1974	FRA	148.2	285.0	305.0	320.0	305.0	169.03
4.	Minelle Jean Yves	1966	FRA	120.14	220.0	235.0	245.0	245.0	140.83
5.	Beres John	1967	CAN	142.08	190.0	200.0	210.0	200.0	111.52

Nation (points)

1.	Japan	51	[12+12+12+9+6]	732.04 w.pts.
2.	U.S.America	50	[12+12+9+9+8]	834.26 w.pts.
3.	France	48	[12+12+9+8+7]	769.41 w.pts.
4.	Finland	21	[12+9]	303.96 w.pts.
5.	Canada	21	[9+6+6]	370.76 w.pts.
6.	Czechia	17	[9+8]	336.50 w.pts.

Best Lifters of Masters 1

PL.	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Snyder Jeff	U.S.America	134.00	342.5	192.7250
2.	Anderson Timothy	U.S.America	101.42	290.0	175.5080
3.	Soukal Jaroslav	Czechia	162.40	320.0	175.0400

Masters 2

-59kg

1.	Miura Hiroshi	1964	JPN	49.22	140.0	145.0	145.0	140.0	145.73
2.	Kolsovsky Stefan	1961	SVK	58.32	132.5	137.5	142.5	137.5	120.39
3.	Helms Jay	1964	USA	58.64	120.0	120.0	122.5	122.5	106.71

-66kg

1.	Yano Hideyuki	1959	JPN	64.74	172.5	180.0	190.0	180.0	143.62
2.	Smith Charles	1960	NED	65.7	167.5	175.0	175.0	167.5	132.01
3.	Simmons Gregory	1965	USA	65.94	132.5	137.5	145.0	145.0	113.94
4.	Nakamura Hideaki	1960	JPN	65.56	130.0	135.0	142.5	135.0	106.58

-74kg

1.	Ide Mitsuhiro	1961	JPN	73.18	190.0	207.5	207.5	190.0	137.77
2.	Matsuoka Toshio	1963	JPN	72.58	170.0	170.0	190.0	170.0	124.00
3.	Sides Daniel	1956	USA	73.22	147.5	147.5	172.5	147.5	106.91

-83kg

1.	Saunamaki Jukka	1961	SWE	81.86	200.0	205.0	207.5	207.5	139.67
2.	Kipp Wesley	1962	USA	82.64	200.0	205.0	210.0	205.0	137.19
3.	Ring Tomas	1960	SWE	82.56	190.0	190.0	190.0	190.0	127.22
—	Friedrich Veiko	1964	GER	79.98	170.0	175.0	175.0	DSQ	—

-93kg

1.	Farstad Svein Olav	1965	NOR	92.38	237.5	250.5-w2	260.0	250.5	157.87
2.	Hering Uwe	1963	GER	92.5	225.0	230.0	237.5	237.5	149.58
3.	Kerimbekov Bakyt	1961	KGZ	92.44	230.0	230.0	235.0	235.0	148.05
4.	Brubaker Bryon	1963	USA	92.56	205.0	215.0	232.5	205.0	129.07
—	Vanhamaki Tarmo	1960	FIN	91.78	200.0	200.0	210.0	DSQ	—

-105kg

1.	Pamplin Gary	1957	USA	104.06	232.5	242.5	265.0	242.5	145.38
2.	Lehto Juha	1964	FIN	103.1	230.0	240.0	245.0	240.0	144.36
3.	Rock Brian	1959	CAN	103.88	200.0	200.0	210.0	210.0	125.96

-120kg

1.	Doan David	1964	USA	118.26	275.0	275.0	290.5	275.0	158.65
2.	Zehnder Christophe	1965	FRA	117.72	225.0	235.0	235.0	235.0	135.74
3.	Rantala Timo	1963	FIN	117.14	155.0	187.5	225.0	187.5	108.43

120+kg

1.	Gaudreau Daniel	1960	USA	143.8	275.0	275.0	287.5	275.0	153.06
2.	Loether Juergen	1963	GER	132.9	250.0	255.0	275.0	255.0	143.67
3.	Lefebvre Patrice	1962	FRA	134.06	235.0	252.5	262.5	235.0	132.21

Nation (points)

1.	U.S.America	53	[12+12+12+9+8]	708.22 w.pts.
2.	Japan	52	[12+12+12+9+7]	657.70 w.pts.
3.	Sweden	20	[12+8]	266.89 w.pts.
4.	Germany	18	[9+9]	293.24 w.pts.
5.	France	17	[9+8]	267.95 w.pts.
6.	Finland	17	[9+8]	252.79 w.pts.

Best Lifters of Masters 2

PL.	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Doan David	U.S.America	118.26	275.0	158.6480
2.	Farstad Svein Olav	Norway	92.38	250.5	157.8650
3.	Gaudreau Daniel	U.S.America	143.80	275.0	153.0650

Masters 3

-59kg

1.	Felts Sam	1952	USA	58.62	120.0	130.0	130.0	120.0	104.57
2.	Flink Seppo	1953	FIN	58.88	92.5	97.5	100.0	97.5	84.61
3.	Tatsumi Mel	1948	USA	55.86	62.5	70.0	72.5	72.5	66.16

-66kg

1.	Sato Keiji	1952	JPN	65.36	155.0	160.0	171.5	160.0	126.64
2.	Sitruk Claude	1950	FRA	64.96	145.0	150.0	160.0	150.0	119.34
3.	Huber Marvin	1953	USA	65.16	120.0	125.0	130.0	125.0	99.20
4.	Sawada Shinji	1947	JPN	65.3	117.5	117.5	127.5	117.5	93.08

-74kg

1.	Miller Larry	1954	USA	73.36	165.0	175.5-w3	185.0	175.5	127.03
2.	Dernoncourt Michel	1946	FRA	73.26	147.5	152.5	157.5	152.5	110.49
3.	Kauranen Antero	1948	FIN	73.6	140.0	142.5	145.0	140.0	101.09
4.	Tanaka Mitsuaki	1953	JPN	72.02	125.0	130.0	135.0	135.0	99.04

-83kg

1.	Mehlich Eugeniusz	1955	POL	78.44	165.0	170.0	177.5	170.0	117.54
2.	Baumeister Gerhard	1952	GER	82.14	147.5	160.0	160.0	160.0	107.47
3.	Monoe Takeshi	1952	JPN	77.82	157.5	162.5	162.5	157.5	109.46

-93kg

1.	Boe Kjell Arne	1952	NOR	89.66	100.0	170.0	X	170.0	108.73
—	Kline Brian	1950	USA	91.46	170.0	170.0	170.0	DSQ	—

-105kg

1.	Iversen Bjorn	1955	SWE	104.26	205.0	235.5	235.5	205.0	122.82
2.	Den Ouden Paul	1954	NED	99.56	165.0	175.0	182.5	175.0	106.70
3.	Evans Robert	1946	USA	103.8	160.0	170.0	180.0	170.0	102.00

-120kg

1.	Hutchinson Kevin	1954	USA	111.46	140.0	205.0	205.0	140.0	82.07
1.	Armstrong Mike	1955	CAN	145.08	205.0	215.0	217.5	217.5	120.91
2.	Crawford Robert	1951	USA	145.33	175.0	207.5	217.5	207.5	115.33

Nation (points)

1.	U.S.America	53	[12+12+12+9+8]	530.99 w.pts.
2.	Japan	34	[12+8+7+7]	428.22 w.pts.
3.	France	18	[9+9]	229.83 w.pts.
4.	Finland	17	[9+8]	185.71 w.pts.
5.	Sweden	12	[12]	122.82 w.pts.
6.	Canada	12	[12]	120.91 w.pts.

Best Lifters of Masters 3

PL.	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Miller Larry	U.S.America	73.36	175.5	127.0270
2.	Sato Keiji	Japan	65.36	160.0	126.6400
3.	Iversen Bjorn	Sweden	104.26	205.0	122.8160

Masters 4**-59kg**

1.	Otaki Masami	1942	JPN	55.4	77.5	100.0	102.5	100.0	92.00
----	--------------	------	-----	------	------	-------	------------------	-------	-------

-66kg

1.	Yamamoto Shigeki	1943	JPN	65.5	80.0	128.0	128.0-w4	128.0	101.13
----	------------------	------	-----	------	------	------------------	----------	-------	--------

-74kg

1.	Maka Boleslaw	1942	POL	73.46	145.0	147.5	150.5	145.0	104.85
2.	Ogata Manabu	1941	JPN	69.7	135.0	140.0	145.0	135.0	101.51

-83kg

1.	Settles Mike	1944	USA	80.78	132.5	135.0	156.5	135.0	91.61
2.	Huchet Marc	1938	FRA	81.3	127.5	132.5	137.5	127.5	86.18
3.	Penner Sam	1930	USA	80.24	72.5	77.5	82.5	82.5	56.22

-93kg

1.	Kawabe Katsuji	1942	JPN	92.22	145.0	150.0	155.0	150.0	94.61
2.	Mattila Kari	1945	SWE	91.92	125.0	130.0	145.0	130.0	82.12
3.	Curtis Raymond	1932	USA	89.00	82.5	97.5	102.5	97.5	62.60

-105kg

1.	Negriff Larry	1941	USA	103.36	182.5	193.0	193.0	182.5	109.66
2.	Nagashima Yoshitaka	1944	JPN	93.34	120.0	130.0	135.0	130.0	81.52
3.	Moore John	1937	USA	93.94	110.0	122.5	137.5	122.5	76.59

-120kg

1.	Nylund Christer	1944	FIN	110.06	170.0	175.0-c4	180.0-w4	180.0	105.91
2.	Helmich William	1942	USA	108.00	145.0	155.0	175.0	155.0	91.75
3.	Kuriger III Richard	1942	USA	106.64	45.0	50.0	55.0	55.0	32.69

Nation (points)

1.	Japan	54	[12+12+12+9+9]	470.77 w.pts.
2.	U.S.America	49	[12+12+9+8+8]	432.21 w.pts.
3.	Finland	12	[12]	105.91 w.pts.
4.	Poland	12	[12]	104.85 w.pts.
5.	France	9	[9]	86.18 w.pts.
6.	Sweden	9	[9]	82.12 w.pts.

Best Lifters of Masters 4

PL.	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Negriff Larry	U.S.America	103.36	182.5	109.6640
2.	Nylund Christer	Finland	110.06	180.0	105.9120
3.	Maka Boleslaw	Poland	73.46	145.0	104.8500